

SHIRAKOBATO

しらこぼと



SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

1987. S

WILD BIRD



NO. 39

日本野鳥の会 埼玉県支部

地図を楽しむ

森本國夫(大宮市)

自分のフィールドや探鳥先を皆さんはどのようにして決めていますか。探鳥会で行った所ですか。それとも、自宅の周辺にたまたまあった場所でしょうか。

ここでは一つの方法として、地図を読み、地図で探鳥し、そして現地に行って確認するという楽しみ方もあることを皆さんに知っていただきたいと思い、ペンをとりました。

地形図のこと

国土地理院の発行している、5万分の1や2万5千分の1の地形図という地図があることを御存じの方もいると思います。ここでは、後者の2万5千分の1地形図について取り上げることにしましょう。この地形図1枚には、およそ10km四方の範囲が描かれています。

埼玉県全体を見るのには、2万5千分の1地形図(以下地形図という)が54枚必要ですが、取りあえずはあなたが行きやすくて鳥が

居そうな場所の地形図を手に入れて下さい。大きな書店にはありますので、問い合わせてみて下さい。1枚が190円(3色刷)です。

地形図には一般の道路や建物や住宅を重点にした地図ではあまり得られない、水田、果樹園、畑、広葉樹林、針葉樹林、草地、荒地地など自然環境に関する情報が描かれていて、これが鳥を見るのに大いに役立つのです。

野鳥と環境

多種の野鳥を見られる場所とはいったいどんな所でしょうか。有名な探鳥地を思い浮かべてみると、沼や池や川があって、林があって、水田や畑があって……。そうですね。多くの野鳥が見られる所というのは、それだけ多様な環境を持っているのです。

野鳥は種類によって食べ物や、巣を作る場所が違ってきます。だから、ある環境の場所にはそこで餌をとったり繁殖したりする種類の野鳥が居るわけで、いろんな環境がそろっている場所にはそれだけ多くの種類が住んでいるのです。



(カット・黒田佳子)



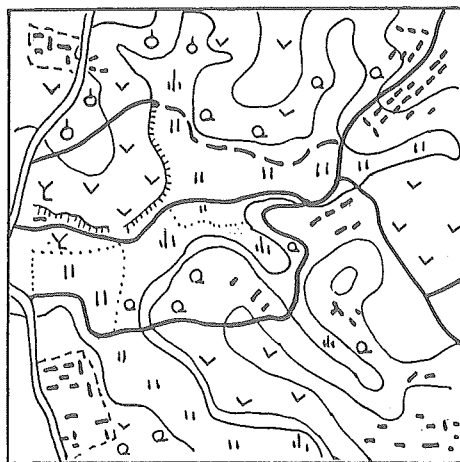
ところで、探鳥会が開かれている所だけが鳥を見るのにいいのかというと、決してそんなことはありません。探鳥会を開くためには、交通の便、コースの長さ、トイレの有無などいろんな条件を満足する必要があるのです。いい場所であっても探鳥会には必ずしも適当でない場合もあるのです。でも個人で探鳥する時には制約がかなり少なくなりますね。

たくさん見る

野鳥の種類をたくさん見られる所に行きたいときは、前に説明したようにいろいろな環境条件がそろった場所を探します。あ、忘れてましたが、地形図には記号の説明が書いてあるので、学校で習ったけど忘れちゃったという人も大丈夫です。

良さそうな所が見つけれましたか。道はちゃんとありますか。道がなくては歩けません。実際には地形図にのっていないような小さい道があったりするのですが、それは現地に行ってからのお楽しみ。場所が決まったら地形図上で景色を想像しながら、この道歩いていると右側の林からシジュウカラの声が聞こえ、左の湿地にはコサギがいる、などと空想上の探鳥を楽しみます。鳥を見ながら歩く速さは、探鳥会で1時間に1km程度ですが、小人数ではもう少し速いかもしれません。地形図の右下にある縮尺で距離を確かめて所要時間も考えてみましょう。余談ですが、地形図では道幅もわかるので、車で現地まで行く時も便利です。

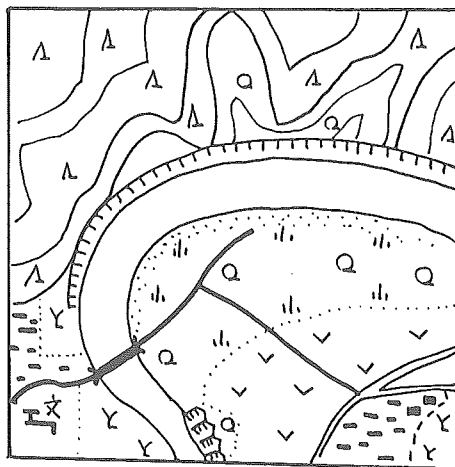
空想上の探鳥だけでは物足りなくなったら、暇を見つけて現地を歩いてみるのがまた楽しみです。想像どおりだったり、水田のつもり



だったのに埋め立てられていたり、耕作されなくなってアシ原に変わっていたり、林が宅地になっていたり、環境の変化も見られるでしょう。あなたの持っている地形図がいつの状態なのかは、右下に昭和〇年修正測量などと書いてあるのでわかります。私が地形図で見つけた場所には、たとえばこの2月に探鳥会が開かれた大宮市の高木地区付近があります。ここは地形図の「上尾」というののっていますが、図の上では水田のはずの場所が実際行くと、色々違った状態になっています。

特定の鳥を見る

さて、ある特定の鳥を見たいときはどうでしょうか。そのためには鳥の習性を知る必要がありますが、本で調べるか、ベテランの方に聞いてみるのがいいでしょう。たとえば、カワセミとヤマセミの居るところを探してみましょう。確実に見られるところは繁殖地ですが、これらの2種は川のそばにある土がむきだしになったガケに巣を作るので、川の中流から上流で、ガケがあるところを探します。適当な場所が見つかったら、あとは現地に向いて推測が当たっているかどうか確かめてみましょう。探鳥会が行われている場所であれば、高麗川の城西大学よりやや上流のあたり（地形図名「越生」）などがこのような場所の例です。



どうでしょうか。地形図もなかなか面白そうだと感じていただければ幸いです。

利根川阪東大橋下流でのマガンの越冬記録

北川 慎一（本庄市）

1986年11月10日、本庄市の利根川阪東大橋下流の中洲でマガン（若鳥）2羽を確認、以後、翌1987年4月1日の終認まで観察を続けましたので、これを報告します。

（小杉1978）によれば埼玉で越冬が確認されたのは1941年越谷市の官内庁鴨場周辺の水田での記録が最後であり、それ以降は数例（1978年大宮市荒川、1978年本庄市利根川、1979年浦和市荒川、1983年川越市伊佐沼）の一時的飛来にすぎません（小荷田1985）。45年ぶりの埼玉でのマガンの越冬となります。

11月10日、私のフィールドである阪東大橋下流にカモを見に行ったところ、中洲の水際にカモより大きい2つの姿が見えました。全体に灰褐色で下尾筒が白く、嘴はオレンジ色のマガンです。しかし、腹全体にまだらな黒帯のない点、嘴基部の白さが僅かな点から若鳥と思われます。この時点では、他のカモ類とは離れて2羽が寄り添うように草を食べていました。

11月下旬、マガン2羽は下流に居場所を移しながら、オナガガモ、ヒドリガモ、カルガ



1986年11月16日、阪東大橋下流、
北川慎一撮影

モの群れの中に混じるようになりました。しかし、行動する時はいつも2羽一緒に、並んで飛んだ時、下尾筒の白さが目立ち、他のカモと区別できます。

12月に入ると観察されませんでした。これは一時的にどこかへ移動していたのか、5,000羽ものカモに混じていたため発見できなかったか明らかではありません。

1月に入ると再び観察され、場所はさらに下流へ移り、主にカルガモの群れの中にいました。1月15日のガン・カモ調査の日にも確認され、2月15日の支部探鳥会では多くの人が目のあたりにしました。しかし、前述のように、数千羽のカモに混じり飛ばないとわからないという日も多くありました。

終認ちかくなると、嘴基部の白さが渡ってきた時より目立つようになりました。主に水際や浅瀬に生えている草や水草を食べているようでした。

関東地方からマガンが消えていく中で、来冬の渡来が待たれます。

<参考文献>

小杉昭光 1978 埼玉の鳥類 埼玉県動物誌
埼玉県教育委員会 浦和

小荷田行男 1985 埼玉県におけるガン類後退の記録 雁のたより 25 16 雁を保護する会 仙台

表 利根川阪東大橋下流でのマガンの越冬記録

観察日	観 察	備 考
1986.		
11. 10	マガン(若鳥)2	初認. 中洲で草を食べている
11. 16	"	
11. 23	"	カモの群れに混じりはじめる
11. 24	"	
12. 10	確認できず) ※他への移動か、発見できなかったのかは不明
12. 20	"	
1987.		
1. 2	マガン(若鳥)2	だいぶ下流で
1. 3	"	
1. 7	確認できず	
1. 15	マガン(若鳥)2	ガンカモ調査
2. 8	"	
2. 15	"	支部探鳥会
3. 1	確認できず) ※と同じ
3. 11	"	
3. 26	マガン(若鳥)2	嘴基部がだいぶ白くなってきたが腹には、横じまなし
4. 1	"	終認



野鳥にチャレンジ

林 滋 (美里町)

私は、野鳥の会に入会する前は、考古学が好きで(今でも)、各地を見学して回っていました。そのうち石器にひかれ、自分で石器を作る実験を数年やっていました。原石をさがして荒川や利根川を毎週歩きまわりました。原石をもち帰り、出土品の石器と同じものができるまで、夜の明けるのも忘れて熱中していました。そのおかげで、私の作ったヤジリや石器は、本物と区別のつく人がいなくなり、自分でもだいたい満足できる点数になったので、チャレンジを終了しました。その頃、友人から借りたプロミナーで野鳥を見て、スバラシイと思い、毎週探鳥会に出るようになりました。鳥に対しては、まったくの初心者ですが、熱意だけは人一倍あると思っています

ハドソニアン入門のすすめ

西城戸 司 (浦和市)

野鳥、自然そして人。職業、年齢、性別や国籍をも超えて人々が互に心を通いあわせる野鳥の会。その活動の中でさまざまな出会いと感動や生きることの共感が生じる。

敬愛する浦和のTさんの言葉、「鳥を見ること、そして鳥を想うことにより、人生の重荷を軽くしてくれる。」が思い出される。そのTさんにより、W. H. ハドソンの『はるかな国とほい昔』を紹介される。(『しらこぼと』第2号)

ハドソンはアルゼンチン生まれのイギリスの偉大なナチュラリストで、自然文学者として、鳥類研究者として活躍するのみならず、RSPB(英国鳥類保護協会)の設立やその後の発展に大きな貢献をしたことでも知られている。『生命そのものへの深い共感に裏づけられたハドソンの小説やエッセイ、さらにその人格を愛してやまない人々をハドソニアンと呼ぶ』とのことである。(竹下信雄:ハドソン物語、Outdoor; 1985年臨時増刊、バードウォッチング特集)

暑い季節の一日、皆さんもハドソンの作品を読んでみませんか。

バードソン初体験

草間和子 (浦和市)

バードソン。体力とゲーム。車とスポンサー。メンバー合流。女と男。運命(?)協同体。東京から越谷へ。白小鳩とアオバズク。夕暮れとシギ。夜と仮の宿。ビールとラーメン。静寂と闇。天空と星と人工衛星。シュラフザックとダンボール。夜露と朝つゆ。寒さと夜明け。鳥達の目ざめと暁。あくびと始動。青空と男体山。光と風。花と木々。エントリーチームの男たち。友情とライバル。埼玉群馬栃木県。鳥鳥鳥。終局と疲れと充足感。愛と募金と感謝。というわけで、地球は一つなりを実感してジ・エンド。

私共Y Yパルクチームの成績をご報告いたします。確認種数78種。募金応募者数104名、募金額221,840円となりました。

スポンサーのパルクカメラ店様より、バードソンに関わる一切の費用提供、又会員の方よりのお志、多数の方の募金と支援、M氏夫妻の温いご協力等によりまして、大成功のうちに終了することが出来ました。

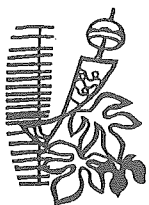
メンバー4名、サポート1名、心よりお礼申し上げます。ツルに幸せを、と願いつゝ。

入社前の楽しみ

宮内武昭 (鶴ヶ島町)

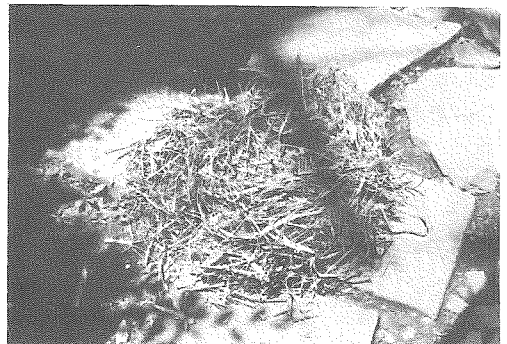
毎日の入社前の早朝「高倉の林」の探鳥を行っています。黒ツグミの鳥真似の鳴き声を聴き、三光鳥の姿が頭上をかすめるなど、思いがけない楽しみを発見して、益々素晴らしい自然の魅力に心躍らせております。

日一日と夏鳥の訪れの変化を見逃すまいと、双眼鏡とカメラを持参して歩きまわっていますが、なかなか思うような写真が撮れないのが悩みの種です。



野鳥情報

- マガモ ◇ 6月17日、坂戸市多和目城山下の高麗川で♂♀各1羽(宮内武昭)。
- ヒドリガモ ◇ 6月6日、本庄市の阪東大橋下流の利根川で♂♀各1羽(北川慎一)。
- オナガガモ ◇ 6月6日、本庄市の阪東大橋下流の利根川で♂1羽(北川慎一)。
- ホシハジロ ◇ 6月17日、川本町の植松橋下流の荒川で♂1羽(渡辺 敦、今井明巨)。
- セイタカシギ ◇ 6月6日午後5時、本庄市の阪東大橋下流で1羽(林 滋・千春、堀越省一、北川慎一)。
- ツバメチドリ(繁殖) ◇ 6月6日、本庄市の阪東大橋下流で2つがいの内、1つの巣でヒナ1羽を確認。もう1つの巣では抱卵中(北川慎一)。
- カッコウ ◇ 5月17日、鶴ヶ島町の高倉の林で1羽(宮内武昭)。◇ 5月19日、吉見町古田で1羽(北川慎一)。◇ 5月23日午後3時、鶴ヶ島町上広谷で1羽(塚原恵子)。◇ 6月4日、浦和市中尾で1羽(草間和子、佐藤ミツ)。◇ 6月4日、浦和市秋ヶ瀬公園で鳴く(金井繁雄)。◇ 6月10日、大宮市天沼町で1羽(浅沼源太郎)。
- アオバズク ◇ 5月16日午後10時55分、鶴ヶ島町上新田で1羽が小さな声で鳴く(宮内武昭)。◇ 5月22日午後4時、鶴ヶ島町の高倉の林で2羽(宮内武昭)。◇ 6月1日、寄居町西入で1羽(山崎さかえ)。
- アマツバメ ◇ 6月10日、本庄市の阪東大橋上空を3羽(今井明巨)。◇ 6月11日、坂戸市四日市場の上空を2羽(宮内武昭)。◇ 6月21日、白岡町で1羽(浅田徳次)。◇ 6月22日午後2時30分、浦和市三室で1羽(海老原美夫)。
- アカショウビン ◇ 6月2日、大滝村の秩父湖上流で鳴く(原田秀雄)。
- オオアカゲラ ◇ 5月31日、両神山で1羽。他に同所でコノハズク、キビタキ、コマドリ、アオバト、コルリ等を堪能する(北川慎一)。
- クロツグミ ◇ 5月13日、鶴ヶ島町の高倉の林で♂1羽(宮内武昭)。
- コヨシキリ ◇ 6月22日午後4時、浦和市大間木地区の休耕田で1羽(海老原美夫)。
- メボソムシクイ ◇ 5月27日、鶴ヶ島町の高倉の林で1羽(宮内武昭)。
- オオルリ ◇ 5月24日、大滝村の秩父湖上流で♂♀各1羽(原田秀雄)。
- コサメビタキ ◇ 5月4日、三峰山頂で1羽(榎本秀和)。
- サンコウチョウ ◇ 5月13日、鶴ヶ島町高倉熊野で♂1羽(宮内武昭)。◇ 5月19日、日高町駒寺野新田で♂1羽(宮内武昭)。◇ 6月24日、所沢市中富で♂♀各1羽と巢の中にヒナ4羽(木村義人、草間和子)。◇ 6月29日、同所でヒナ4羽が巣立つ(藤原寛治)。
- エナガ ◇ 5月19日、鶴ヶ島町の高倉の林で10羽(宮内武昭)。◇ 6月14日、日高町の巾着田でヒナ10羽以上(福井 亘)。
- ホオアカ ◇ 6月14日午後9時30分、日高町の巾着田で♂1羽(福井 亘)。
- ウソ ◇ 5月16日、浦和市本太で1羽(小荷田行男)。
- イカル ◇ 5月30日、上福岡市上福岡の自宅近くでさえずる(中村 治)。
- ムクドリ ◇ 6月14日、三芳町の高福寺で若鳥25羽が短時間に落鳥。その後2羽は回復して飛び去ったが23羽死亡。原因は不明(押久保 晋)。
- ◇ 自宅2階北側の雨戸の戸袋に巣を作る。5月3日より巣作り始まる。6月1日～2日、ヒナの誕生。だんだん鳴き声が元気になる。6月19日夕方、ヒナ2羽無事に巣立つ。写真はその時の巣材(草間和子)。



【8月の見どころ】

あれほどオオヨシキリのさえずりでにぎやかだったヨシ原も、8月になるとさすがに静かになります。しかし、夕暮れ時、日没後20分もすると、どこからともなく集って来るツバメ達の鳴き交す声で急ににぎやかになります。ここは、富士見市柳瀬川のヨシ原です。ツバメの罫入りが始まったのです。数千近いツバメが乱舞する様はまさに壮観です。天気が悪い日は、罫入りの時刻が早くなりますので御注意を。今のところ、県内で知られている場所は、ここだけですが、他にもあると思われるので、見つけた方は御一報を。



5月のムナグロ(佐藤晶人 中学1年)

また、南の越冬地に渡る途中のシギやチドリの仲間が、県内の調整池や河川敷にも姿を見せてきます。シギチは9月が本番ですが、8月にもけっこう渡ってきています。

ツバメの巣をねぐらにした種名不明の個体

海老原美夫(浦和市)

『しらこぼと』5月号(第36号)7ページで紹介された「ジョウビタキ♀と思われるヒタキ」は、結局種名不明という結論となったが、ヒタキ類がツバメの巣をねぐらとした例は全国でも初めてと思われるので、そのことと、なぜ種名不明となったかについて要旨を報告する。

周辺環境等：浦和駅の東北東約2km、雑木林と畑、住宅が混在する浦和市中尾地区の新興住宅地に数年前に建設されたT氏宅の東側玄関ポーチの屋根裏側にツバメの巣はある。

巣の状況：地上から2m 24cm、玄関灯から2m 10cmに位置し、半ば壊れていて、壁面からの出っ張りが4.5cm。

観察の結果：1987年2月初めから毎晩種名不明の小鳥がツバメの巣に寝に来ているのを、T氏宅の人たちが見つけ、T氏宅近所に住む草間和子幹事が3月19日から海老原とともに継続して観察した。

その鳥は、空が暗くなった午後7時ごろより後は、巣のなかですっかり落ち着いて、人が通っても玄関灯をつけても、あるいは懐中電灯で照らしても逃げようとしなかったが、3月28～9日ごろから落ち着かなくなり、3月30日の夜飛び立ったのが終認となった。種名の特定について：巣の大きさと比較して全長は推定13～4cm。全体に淡褐色、初列風

切が濃褐色。頭頂から後頭にかけて色が濃く見えるが巣のなかにいる状態では背の様子は見えない。くちばしの上から目の上にかけて薄色帯があり(A)、目の縁が白い(B)、くちばし基部から目、耳羽にかけて、若干色の濃い部分がある(C)。喉、腹と下尾筒は白(D)、胸に不明瞭な斑点(E)、尾から腰にかけて赤橙色。足とくちばしは黒。3月19日明るいうちに飛び立つのを見た草間は、翼に白斑のないことを観察している(F)。

ジョウビタキ♀が最も近いが、A～Fの特徴が一致しない。DとEは若鳥であるためだという考えを否定するだけの材料はない。また、Fについては明確に証明する写真撮影は出来なかったし、見落としの可能性も全く否定するわけにはいかない。しかし、だからと言ってこれをジョウビタキであるときめつけるのは無謀で、A～Fの特徴を総合して、これはジョウビタキではないと判断するのが妥当であろう。

では、ジョウビタキ以外の何かというと、日本で記録された525種のなかにも、そのほかのいくつかの資料にも、該当するものを見出すことができなかった。

したがって、現在までのデータでは、種名特定ができないというのが結論となった。



講演『シマチュウの野鳥の世界』

期日：8月1日(土)
 会場：浦和市立コミュニティーセンター2階
 視聴覚室(浦和駅西口から県庁通りを
 西進、中山道を左折して約600m右側)
 時間：午後5時開演、午後7時閉会
 講師：嶋田忠氏
 案内：カワセミ、アカショウビンなどの写真
 で有名な、嶋田忠氏(埼玉県支部会員、
 北海道在住)の講演会です。本物のシ
 マチュウさんをウォッチングするまた
 とないチャンスです。双眼鏡なしで見
 られますから、奮ってお集まり下さい。
 シマチュウさんのサイン入り写真集も
 販売の予定です。

お知らせ

嶋田忠さんの写真展 『火の鳥アカショウビン』

期日：8月7日～19日
 会場：池袋西武デパート8階 アートフォー
 ラム
 案内：シマチュウさんの講演に感激した人も、
 講演に行けなかった人も、写真をじっ
 くり見るならこちらに出かけましょう。
 涼しい室内で、アカショウビンとの感
 動的な出会いを楽しめます。(支部行
 事ではありません。)

焼け付くような暑さの中、鳥達の秋の渡り
 の始まる8月。夏羽の名残のシギ・チドリ、
 旅の準備に忙しい夏鳥達に会いに、重い腰を
 上げて、今月も探鳥会へ。

持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、
 (もしあれば)双眼鏡などです。

参加費は、一般=100円、会員及び中学生
 以下=50円。予約申し込みは必要ありません。
 小雨決行です。

夢中になり過ぎて、鳥を驚かしたり、植物
 を荒らしたりなどしないように。いつもフ
 ールドマナーをお忘れなく。

川本町・大麻生明戸探鳥会

期日：8月9日(日)
 集合：午前9時30分 秩父鉄道明戸駅前
 交通：高崎線大宮8:07発→熊谷8:53着、
 秩父鉄道乗換え9:04発→明戸9:16
 着 / 東武東上線川越7:38発→森林
 公園乗継ぎ→寄居8:45着、秩父鉄道
 乗換え9:01発→明戸9:15着
 解散：午後1時ごろ
 担当：鈴木忠雄、今井明巨
 見どころ：秋のさきがけを探してみませんか
 (I)。一年中で一番暑い時期ですが、
 野鳥の世界では既に「秋」が始まって
 います。河原にはシギ・チドリ類の第
 一陣が到着、林にも山の夏鳥が下りて
 きているでしょう。

浦和市・三室地区定例探鳥会

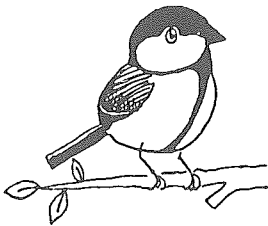
期日：8月16日(日)
 集合：午前8時15分 北浦和駅東口 または
 午前9時 浦和市立郷土博物館前
 (北浦和駅の場合、その後バス利用)
 解散：午後1時ごろ
 共催：浦和市立郷土博物館(参加費無料)
 担当：楠見邦博、福井恒人、渡辺周司
 見どころ：秋のさきがけを探してみませんか
 (II)。そろそろ空にも秋の色が見え
 るころ。河原にシギ達のさびしげな声
 が響き始めます。林縁には今秋もコム
 クドリが立ち寄っているでしょう。

千葉県・谷津干潟探鳥会

期日：8月23日(日)
集合：午前9時15分 武蔵野線西船橋駅到着
ホーム中央付近
交通：武蔵野線新秋津7：58発→北朝霞8：
09発→武蔵浦和8：17発→南浦和8：
20発→南越谷8：33発→西船橋9：07
着(その後津田沼まで電車、津田沼か
らバス利用)
解散：午後2時ごろ 担当：未定
共催：関東地区各支部の合同探鳥会
見どころ：県内では見られない海辺のシギ・
チドリが心ゆくまで楽しめます。特に
長い嘴のダイシャクシギは圧巻です。
少し珍しい種類も見られるかも。他支
部の人も充分にウォッチングしてくま
しょう。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：8月29日(土) 午後1時～3時ごろ
会場：浦和市立コミュニティーセンター2階
第2講座室(道順は8月1日の講演会
と同じ)
案内：今月も気楽にお集まり下さい。思わぬ
情報が待っているかも知れません。



野鳥写真クラブ定例会

とき：8月29日(土) 午後3時ごろ～5時
会場：『しらこぼと』袋づめの会と同じ
案内：スライドと写し方の勉強と…皆自由に。

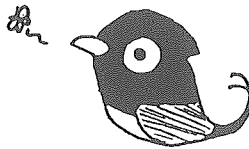
鳩山町・物見山探鳥会

期日：9月6日(日)
集合：午前8時30分 東武東上線高坂駅前
交通：東武東上線朝霞台7：49発→川越8：
08発→高坂8：29着 / 川越線大宮7
：35発→川越7：54着、東上線乗り換
え、以下上と同じ

解散：正午ごろ

担当：海老原美夫

見どころ：初秋の山歩きに行きませんか。ま
だまだ残暑が厳しい時
期ですが、足下を見れ
ば、可憐な秋の花。林
の小鳥達にも何となく
落ち着きのない様子
が見られます。



神奈川県・多摩川河口探鳥会

期日：9月12日(土)
集合：午前9時30分 京浜急行大師線小島新
田駅前
交通：品川駅より京浜急行線乗車、約20分
で京浜川崎着、大師線に乗り換え、約10
分で小島新田着
解散：午後2時ごろ
担当：中島康夫、楠見邦博、横山みどり
見どころ：シギ・チドリの渡りの最盛期。こ
の時期には海辺にもどうぞ。

(見出しイラスト=鈴木加代子。カット=鈴木加代子、鈴木高士)

表紙の写真

セッカ(ヒタキ科ウグイス亜科)

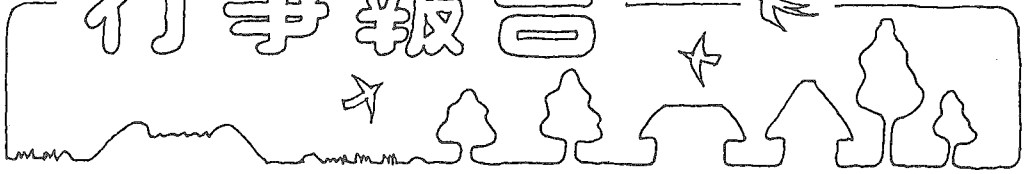
真夏の太陽が照りつけるあしはらで、ヒッ
ヒッヒッと舞い上がり、チャッチャッチャッ
と舞い降りる。1日中、飽きもせず。

一夫多妻の彼は、3か所の巣を順番に回る
と一休み。羽づくろいをしたり、時には溜息

ついちゃったりして。思わず笑って、小さい
くせにがんばるな。

舞い上がり舞い降りて、もう大分日が傾い
てきた。それでもまだまだあっちでもこっち
でもヒッヒッヒッ。(写真と文・影野 仁)

行事報告



3月15日(日) 浦和市 三室地区

人 53人 天気 曇 鳥 コサギ カルガモ コガモ オナガガモ コジュケイ キジ コチドリ ハマシギ タカブシギ イソシギ タシギ ユリカモメ キジバト ヒバリ ツバメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカハラ シロハラ ツグミ ウグイス キタイタダキ ヒガラ シジュウカラ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハンボソガラス ハシブトガラス(38種)大変遅くなりました。5月号の記載もれ分です。

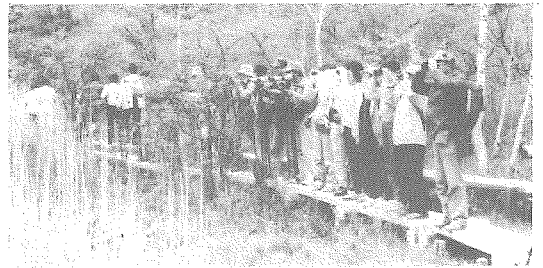
5月30日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

がんばってくれた人 浅沼源太郎、岩波勇一、榎本秀和、海老原教子、海老原美夫、金井祐二、佐藤昌人、登坂久雄、藤野富代、藤原寛治、福井恒人、福井 亘、宮内武昭、吉田二三子、以上14人。袋づめ作業はささとかたづけて、浦和駅前でのバードソン出発式に参加。御苦労さまでした。

6月13~14日(土、日) 奥日光 戦場ヶ原

人 28人 天気 曇 鳥 マガモ トビ オオタカ オオジシギ キジバト ジュウイチ カッコウ ツツドリ ホトトギス フクロウ ヒメアマツバメ アマツバメ アオゲラ アカゲラ コゲラ ヒバリ イワツバメ キセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ アカモズ カワガラス ミソサザイ コマドリ コルリ ノビタキ マミジロ アカハラ ヤブサメ ウグイス メボソムシクイ エゾムシクイ センダイムシクイ キビタキ オオルリ コサメビタキ エナガ コガラ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ ゴジュウカラ キバシリ ホオジロ ホオアカ アオ

ジイカル ニュウナイスズメ スズメ ムクドリ カケス ハンボソガラス ハシブトガラス(54種)戦場ヶ原は、ワタスゲの白とズミの薄紅で彩られていた。湯川沿いではコマドリのカップルの出現で皆興奮。ついでにコルリも現われた。キビタキ、ノビタキ、ホオアカはもちろん。夜の探鳥(聴?)会ではフクロウの声もたっぷり。ボクみたいに行かなかった人はうらやましがり、行った人は大満足の探鳥会。今度は行くぞ。



見えるのはアオジ? ニュウナイスズメ?
奥日光探鳥会・戦場ヶ原の木道にて

6月14日(日) 熊谷市 大麻生

人 16人 天気 曇 鳥 カイツブリ ゴイサギ ササゴイ ダイサギ コサギ カルガモ コジュケイ キジ バン コチドリ イソシギ コアジサシ キジバト カッコウ カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ウグイス オオヨシキリ セッカ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハンボソガラス ハシブトガラス(33種)明戸はベビーラッシュ。コアジサシはダイビングの後、ひなに魚を与える。カルガモは、6羽のひなとどういふ訳かパンの保母さんをつれて歩く。3羽のカワセミの幼鳥も飛び、ダイビングを見せていた。みんな元気で夏を過ごして欲しい。

6月21日(日) 浦和市 三室地区

人 57人 天気 小雨後曇、晴 鳥 カルガモ コジュケイ コチドリ イソシギ キジバト カッコウ ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ ウグイス オオヨシキリ セッカ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシブトガラス ハシボソガラス(23種) 2ヶ月続けて雨にたられることはなんとかまぬがれた。例年現われるカルガモの親子は出てこなかったが、カッコウが見られた。カッコウは天気の良い方が日中よく鳴くようなので、この日はちょうどいいあんばいだったのかもしれない。

6月27日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

がんばってくれた人 岩波勇一、榎本秀和、海老原教子、海老原美夫、加藤均、木村義人、草間和子、楠見文子、佐藤ミツ、登坂久雄、森本國夫、吉田二三子、吉本富美子、以

上13人。

6月27日(土) 写真クラブ定例会

作品発表した人 海老原美夫、小川寿一、加藤均、木村義人、登坂久雄、吉本富美子、渡辺孝章、以上7人。

6月28日(日) 越谷市 増林地区

人 26人 天気 曇 鳥 ゴイサギ コサギ カルガモ シラコバト キジバト ツバメ セグロセキレイ ヒヨドリ オオヨシキリ セッカ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス(16種) 今、鳥の世界は子育ての真っ最中。イワツバメ、ムクドリ、ハシボソガラス、みな子連れで、親鳥は忙しそう。お目当てのシラコバトも、これだけいけば初めての方も感激が薄れます。昼食後に行ったサギのコロニーで、巣から落ちたゴイサギの幼鳥を発見。その運命を思う。合掌。

参加者の声

日光一泊探鳥会に参加して

小林芳江(蓮田市)

6月13日、あまりさわやかなお天気ではなかったが、心は今までにない日本晴れ。初めて手にした日光フリー切符。湯元でバスを降りるとイワツバメが見事な乱舞で大歓迎、それからはキバシリを皮切りに今までに出会った鳥、初めての鳥が次々と顔を見せてくれた。クライマックスはコマドリである。美しい朱と黒の雄、やさしい色の雌のお出ましとなれば大変である。プロミナは林立し、双眼鏡は飛び回るコマドリを追って忙しく動く。あちこちの枝に止まり素晴らしい声で歌ってくれた。続いてマガモの親子、コルリ、カッコウ、ノビタキ、キビタキ、ホオアカ等尽きない。興奮さめやらぬまま、光徳ロッジに着く、夕食後一室に集まり埼玉県支部総会と称して新役員の紹介、そして私の生涯で一番楽しかった親睦会の集まりがあった。この席では和洋製のサンズイドリが飛び交い、すべての人の心

を暖めてくれた。詳細を記すには紙面が足りないのである。その後10時から夜の鳥の声を聞く会、翌朝4時20分から早朝探鳥会、夜来の雨が上がり若葉は輝きウグイスの声もひとさわ美しかった。湯滝入口で栃木支部の3人の方が加わり前日と同じ道に行く。コマドリとマガモ親子との再会に感激、昼食のおにぎりを頑張っている時、けたたましい「ホーホケキョ」。すかさず主人が「あそこにウグイス」と叫ぶ。目の前の枯枝の先に止まって歌うこと十数分。前日からずっと声だけだったウグイスとゆっくり出会えた喜びですべての人があちこちのプロミナをのぞいた。バスに乗る少し前から降り出した雨の中での鳥合わせ、なんと54種との出会いがあった。出発の時大宮でお会いした時は挨拶もできなかった方々と親しくなり、一足先に電車を降りる時は役員の方々をはじめ皆様に感謝の気持ちいっぱい以最敬礼。筆舌に尽くせない楽しい楽しい感激と感謝の二日間でした。

姿なきうぐいすの声身近にて

みどりさやかに光徳の朝



第4回初級リーダー研修会

日本野鳥の会埼玉県支部の活動は、すべてボランティアの無料奉仕にささえられています。役員、事務局、各部の活動、探鳥会のリーダー、すべてがそうです。

ひとつ自分も手伝ってやろうかとお考えの方、いらっしゃいませんか。第4回初級リーダー研修会が開かれます。ご参加ください。

昨年の研修会に参加した人たちは、それぞれ探鳥会リーダーとして活発な活動を展開しています。(写真下)

参加資格・支部会員であればどなたでも。必要なのは、鳥の識別能力より、『熱意』です。

日時・8月30日(日)午前10時～午後3時

場所・浦和市立コミュニティーセンター

申し込みは、事務局または中島康夫普及部長(☎)へご連絡ください。

あなたの思い切りが、野鳥の会活動をもう一歩進める原動力になるのです。



題字『しらこぼと』・山下静一(財)日本野鳥の会会長 イラスト見出し・鷹尾正済(p5, 6, 12, 表紙デザインも) 鈴木加代子(p8) 渡辺周司(p10)

ご寄付ありがとうございます

次の方々からご寄付をいただきました。

笠井実 20,000円 川口鑄物工業協同組合 50,000円 パルク株式会社 30,000円 (50音順、敬称略)

会員数は

7月20日現在738人です。

活動報告

- 6月7日 役員会(支部長・副支部長について、合同探鳥会について)。
- 6月12日 夏鳥分布調査はがき、料金受取人払い手続きを浦和郵便局に申請。
- 6月16日 嶋田忠さんと講演会について打ち合わせ。
- 6月18日 夏鳥分布調査はがきと、会員名簿用紙の印刷を発注。
- 6月20日 浦和市三室地区おぶさと自治会にて、三室の野鳥につき講演(海老原)。
- 6月21日 編集部会。
- 6月27日 研究部会。
- 6月28日 狭山市立中央児童館の野鳥観察会指導(福井恒人、福井亘、海老原教子、海老原美夫)。
- 6月29日 『しらこぼと』7月号発送。



6月の下旬に2度に渡って多福寺に行き、サンコウチョウに4年越しの恨みを晴らして参りました。見られた時間、角度、距離の全てについて、4年分とは言わぬまでも、2、3年分は充分見てきました。5月の戸隠ではコルリとサンショウクイをまじまじ見ってしまったし、阪東大橋のツバメチドリも間近を飛んでくれたし……。それにしても、あんな粋な衣装が欲しいものですね。(鈴木高士)

『しらこぼと』 1987年8月号(第39号) 定価100円(会費に含まれます)
 発行人 今井昌彦 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 電話 0488(32)4062
 〒336 埼玉県浦和市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号
 郵便振替 東京9-121130 銀行振込口座 埼玉銀行浦和支店普通預金316990
 印刷 望月印刷株式会社 (本誌掲載記事の無断転載はかたくお断わりします)